

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2013年5月28日

No.22

交渉中断！ 役員体制を決定した根拠について回答せず！

～2013年度 夏季手当第3回交渉報告～

中央本部は、本日10時より第3回夏季手当交渉を行い、夏季手当に対する要求の根拠を明らかにしました。

【要求の根拠】

- ①度重なる輸送障害の中、安全・安定輸送さらには収入確保に向けて努力している組合員に対して会社は、期末手当でその努力に対して還元すること。
 - ②公共料金の値上げや増税等、取り巻く環境は厳しさを増す中、あろうことか人件費削減を計画する会社姿勢を断じて許さない。組合員に対し、会社経営陣は組合員の生活基盤を安定させる責任を果たすこと。
 - ③鉄道事業部門の活性化には、職場に働く組合員が誇りと自信を持って業務に励むことが必要不可欠である。職場で奮闘する組合員に手当で還元すること。
 - ④発足以来、貨物会社を支えてきたのはJR貨物労組である。会社はこの事実を直視し、まじめに働く組合員に対し、要求満額回答で誠意ある姿勢を見せること。
- 以上4点を示し、この間の苦勞と切実な想いに対し、誠意ある回答を示すよう突きつけました。

【会社の考え方】

- ①平成24年度は、4.5億の経常黒字を計上したが、鉄道事業部門は昨年より赤字が拡大した。
- ②日頃の社員の努力については改めて敬意を表したい。
- ③期末手当については生活給の要素があることは認識しているが、業績給の要素もある。今後交渉を積み重ねたい
- ④社員のモチベーションを高めることは会社の責任であり、この26年は社員の努力のおかげであることは会社としても認識している。

中央本部は、①鉄道事業部門の赤字の責任を組合員に転嫁することは許さない。②24年度決算は黒字、5月も対計画通り推移しており、支払い能力は充分にある。③外部からJR貨物の新生を求められていながら、自らに甘い「お手盛り人事」は非常識である。組合員が納得出来る理由を提示すること。を強く求めました。

会社は、①鉄道事業部門の赤字は、経営陣の責任である。②24年度決算は黒字だが、内容は喜べない状況であり、努力に対する還元は出来る部分と出来ない部分がある。③役員人事については社長の判断であり、この場で回答できないと不誠実な対応に終始しました。

中央本部は、大変な経営状況の中、役員人事には経営陣の覚悟と決意が全く見えない。役員体制の根拠も明らかにせず、組合員に責任を押し付けることは許さない。回答を示さないなら交渉はこれ以上続けられない。ことを通告し交渉を中断しました。中央本部は引き続き姿勢を糾すために今後も交渉を積み上げていきます。

以上